

# 「産業社会と人間」指導計画案 実習例

## 第1章「わたしと社会」1節「わたしたちが生活する社会の課題」

ページ	p.24～27	
所要時間数	1～2時間（家庭学習含む）	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化と高齢化により引き起こされる社会保障制度などの問題を理解し、少子化や高齢化がわたしたちの生活にどのような影響を与えるかを具体的に考え、考えたことを他者と共有することができる。（Work①）</li> <li>・所得の格差が起こる背景や相対的貧困について理解し、その原因や影響を考察することができる。</li> <li>・都市と地方の地域格差についてその影響を理解し、東京圏への一極集中の要因を考察するとともに、地域格差を解消する方策について具体的に考え、述べることができる。（Work②）</li> </ul>	
授業展開例		
時間	学習内容・指導内容	留意点
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を読む。</li> <li>・Work①の調べ学習に取り組む。</li> </ul>	授業内でコンピュータやスマホを使用できない場合や、調べ学習に時間が取れない場合は、事前に事例を読ませ、Work①の学習に取り組ませる。
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭のイラストを確認する。</li> </ul> <p><b>発問例</b></p> <p>「3つのイラストの例について、どのようなことが社会にとって問題なのだろうか？」</p> <p>「3つの例以外に身近な社会課題にはどのようなものがあるか？」</p> <p>→災害、物価高、など</p>	イラストについて質問することでこれから学習することを確認したり、よくわかっていない内容について認識させたりする。正解を求めるのではなく、さまざまな意見が出しやすい雰囲気をつくるように留意する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で本文 p.24～26 を読み、気になったところに線を引く。</li> </ul> <p><b>発話例</b></p> <p>①「どのようなことが書いてあったか簡単にまとめて言ってみよう。」</p> <p>②「気になったキーワードを挙げよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Key Wordを確認する。</li> <li>「社会保障とは何か？」</li> <li>「相対的貧困とはどういう状態か？」</li> </ul> <p><b>①少子化と高齢化</b></p> <p><b>発問例</b></p> <p>「何人ぐらい子供が欲しい？」</p> <p>「少子化と高齢化が進むとなぜ社会保障に問題があるのだろうか？」</p> <p>「働き方改革と少子化、高齢化とはどのような関連があるのだろうか？」</p>	<p>（※①②の発問例については以下の節でも黙読後共通※）</p> <p>自分なりに内容をまとめて整理することで、内容を定着させる。</p> <p>事前学習で自分が大事だと思ったところに線を引くよう指示してもよい。</p> <p>数名に発表してもらおうとよい。</p> <p>出てきたキーワードについては内容を確認する。</p> <p>社会保障の仕組みについては104ページ以降でも触れるが、キーワードを確認する際に説明を加え。時間があればNHK for Schoolの下記の動画（2分）を見てもよい。</p> <p><a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005402940_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005402940_00000</a></p> <p>また、下記の少子高齢化についての動画（10分）は、過疎化や地域格差について触れているため、この段階あるいは授業のまとめとして見ると理解が深まる。</p>

- ・ p25 の「高齢化の推移と将来推計」のグラフで高齢化の推移を確認する。
- ・ 少子高齢化と社会保障の関係を確認する、(動画の視聴など)
- ・ 働き方改革について要旨を説明し、働き方改革と高齢化に伴う労働力不足の関係を確認する。
- ・ p26 の CASE を読む。
- ・ Work①に取り組む。(Work はまとめて行ってもよい)

**設問** Work①

「少子化や高齢化が進むと社会やわたしたちの生活にどのような影響があるか調べたり、話し合ったりしよう。」

- ・ Work④で話し合ったことをクラスで共有する。

**②格差の拡大と貧困**

(1) 所得の格差

**発問例**

「貧困という言葉からどのようなことが思い浮かぶか？」

「年金はいくらぐらいもらえると思うか？」

→令和 5 年度の年金額

令和 5 年度の基礎年金の平均額

¥ 59,013 (男性) ¥ 54,346 (女性)

令和 5 年度の厚生年金の平均額

¥ 163,380 (男性) ¥ 104,686 (女性)

「どのような人が非正規雇用になっているだろうか？」

(2) 都市と地方の地域格差

**発問例**

・ p25 の「地域別最低賃金：時間給」の図を見る。

「●●県の最低賃金はいくらだろうか？」

「最低賃金を知ってどう感じたか？」

「首都圏に住みたいと思うか？思わないか？その理由は？」

- ・ Work②に取り組む

**設問** Work②

「なぜ地方から首都圏に人口が流出してしまうのか、その理由を考えよう。また、地域格差を解消するにはどうしたらよいか考えよう。」

[https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das\\_id=D0005120460\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120460_00000)

CASE の高齢者の活用例を読んで、高齢者にとって働きやすい職場についても考えさせるとよい。

グループで話すときは、情報交換をするだけでもよいが、簡単なワークシートにグループメンバーの話をメモさせてもよい。(以下同様)

「貧困」という言葉は生徒にとって重く響くが、2021 年度の日本の相対的貧困率は 15.4% (令和 4 年国民生活基礎調査) であり先進国最悪のレベルである。相対的貧困率は等価可処分所得が中間値の半分未満の世帯の割合を指すが、日本では 127 万円未満が基準となっている。

特にひとり親世帯の貧困率は 44.5% であり深刻な状況である。生徒の家庭状況などへの配慮が必要だが、こうした問題にも触れられるとよい。

年金額の年度ごとのデータについては、厚生労働省の「厚生年金保険・国民年金事業の概況」を確認する。

アルバイトをしている生徒やこれからアルバイトをしようとしている生徒は時給について関心を持っているので、東京都と比較してどう思うか答えさせるとよい。

Work②に取り組む際に、首都圏に住みたい派と地元に残りたい派に分かれて、それぞれのメリットとデメリットを考えさせてもよい。

<p>まとめ</p>	<p><b>プラスQ</b></p> <p>「格差がひろがることで社会にはどのような影響があるか考えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の振り返りを記入し、学習への取組について自己評価をする。</li> </ul>	<p>プラスQについては、全体に発問して答えさせてもよいし、時間に余裕があれば、Work②と合わせて取り組ませてもよい。</p> <p>学習の振り返りに記入をする。合わせて自己評価についても行っておくとよい。ABCなどで記すだけでなく、なぜそう自己評価するのかの理由を簡単に書かせるとよい。</p>
------------	---	---

**Work① 少子化や高齢化が進むと社会やわたしたちの生活にどのような影響があるか調べたり、話し合ったりしよう。**

<p><b>【実習例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労働力が減って人手不足が生じる。</li> <li>・ 生産性が落ちて、企業の競争力が弱くなってしまう。</li> <li>・ 社会保険料の負担が増えて給料の手取額が減ってしまう。</li> <li>・ 労働力不足を解消するために、ロボットやAIの技術を発達させようという動きが加速する。</li> <li>・ 高齢者が働くようになる。</li> <li>・ 少子化で学校が統廃合される。</li> <li>・ 地方では過疎化が進む。</li> </ul>
---

**Work② なぜ地方から首都圏に人口が流出してしまうのか、その理由を考えよう。また、地域格差を解消するにはどうしたらよいか考えよう。**

<p><b>【実習例】</b></p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方には企業が少なく、就職先がないから。</li> <li>・ 首都圏の方が店や病院などがたくさんあり生活するのに便利。</li> <li>・ 地方では鉄道やバスが少なく車がないと生活できないが、学生や高齢者は運転ができないので不便。</li> <li>・ 地方には図書館や映画館、ライブハウスなどの文化施設や娯楽施設がない。</li> </ul> <p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業を誘致して働く場所をつくる。</li> <li>・ 住居を提供したり、独自の子育て支援金を支給したりして移住者を増やす。</li> <li>・ 観光資源を見つけて観光客を呼び込み、観光に関する産業をつくる。</li> <li>・ ふるさと納税で自治体の収入を増やす。</li> </ul> <p>Work②に取り組む際に、首都圏に住みたい派と地元に残りたい派に分かれて、それぞれのメリットとデメリットを考えさせてから上記の内容に取り組ませてもよい。</p>
---

グループワークメモ	
年 組 番 氏名	
___ ページ Work ___	テーマ
メンバー名	メモ
メンバーの話聞いて考えたこと、気づいたことを書いてみよう。	